

JA柏崎自己改革工程表 (平成28年度～30年度)

3年後の成果目標

- ①担い手経営体の面積シェア 60%
- ②正組合員戸数 8,000戸キープ
- ③販売品取扱高(合計額) 3%アップ(33億円)
- ④園芸の販売品取扱高 10%アップ(1.3億円)
園芸作付面積 10%アップ(40ha)
- ⑤食農教育活動参加成人人数 500名

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)			
		平成27年度(基準年)	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)
地域農業の担い手の育成・支援	担い手経営体を育成し、6割の生産をカバーする。	○集落営農の機運 ○世代交代の進展	○地域営農コーディネーター配置、集落営農誘導 ○新規就農支援メニュー、体制の検討	○集落営農誘導 ○新規就農支援開始	○継続
	評価指標：担い手経営体の面積シェア	50%	目標：55% (実績：)	目標：58% (実績：)	目標：60% (実績：)
	担い手経営体に対するJAのTAC活動を強化し、所得向上の支援をする。	○専任職員(TAC)4名が提案活動	○「TAC農業所得20%アップ2020」の取り組み(5年後所得20%アップ)	○継続	○取り組み生産者数36件を目指す。
	評価指標：個別相談	4件(1件×4名)	目標：12件 (実績：)	目標：24件 (実績：)	目標：36件 (実績：)
生涯現役・一生農業運動を展開し、多様な担い手を確保する。	○年度末まで運動具体策を決定	○定年帰農者向け畑作講習会開講	○直売所への出荷販売利用組合員加入促進	○講習作目の拡大	
評価指標：正組合員戸数	8,354戸	目標：8,200戸以上 (実績：)	目標：8,100戸以上 (実績：)	目標：8,000戸以上 (実績：)	

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)			
		平成27年度(基準年)	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)
園芸生産の拡大	園芸重点8品目の生産拡大を40haを達成する。	○園芸重点8品目16ha	○施設・機械を整備し貸付、面積拡大 ○大規模農家を中心に推進	○継続	○園芸重点8品目40ha
	評価指標：重点品目作付面積	16.3ha	目標：28ha (実績：)	目標：34ha (実績：)	目標：40ha (実績：)
	食農教育の推進を目指し学校給食供給率の拡大	○H27 25品目21t出荷供給率52.8%	○農林県単により予冷庫を整備し、玉ねぎ・馬鈴薯・人参を中心に拡大	○継続	○H30 主要8品目販売数量51t供給率85%
	評価指標：供給率	53%	70%	目標：80% (実績：)	目標：85% (実績：)
農産物直売所を生生涯現役・一生農業運動の拠点と位置づけ、地場農産物の売上げを2割アップする。	○冬～春期の品不足 ○午後の集客不足 ○生産者と消費者の交流不足	○ハウス栽培の推奨 ○集荷便の利用拡大 ○地場産惣菜加工品 ○試食、対面販売強化	○継続	○冬～春期の販売3割アップ ○午後の集客10%増 ○試食、対面販売1割増 ○地場産野菜の試食販売	
評価指標：直売所販売高	1億円	目標：1億200万円 (実績：)	目標：1億400万円 (実績：)	目標：1億600万円 (実績：)	

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)			
		平成27年度(基準年)	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)
米の品質向上と多様な品揃え	中干しによる確実な生育抑制を図りスリムな稲づくりを目指し1等米比率の高位安定化。	○m当りの籾数が多く品質が気象に左右されやすい	○田植え後30日までの確実な中干し指導を図る。(指導会・緊急案内等)	○継続	○1等米比率95%を目標に指導強化
	評価指標：1等米比率	88%	目標：95%以上 (実績：)	目標：95%以上 (実績：)	目標：95%以上 (実績：)
	土づくりによる登熟後半までの稲体活力維持。	○年々秋すき込み率が減少している。気象変動に弱い	○土壌分析を行い分析結果を活かした指導 ○土壌分析の実施	○籾殻を散布して秋すき込み実施の推進	○土壌マップの作成推進 秋すき込み率30%を目指す
	評価指標：秋すき込み率	18%	目標：20% (実績：)	目標：25% (実績：)	目標：30% (実績：)
差別化商品としての「こだわり米」の取扱拡大。	早期米50ha4,000俵 7割減減12ha1,028俵 あきだわら15ha1,196俵	○生産者との協議と全農との調整等	○早期米の品種を新品種に見直し	早期米50ha4,000俵 7割減減13ha1,100俵 あきだわら50ha5,000俵	
評価指標：こだわり米取扱量	6,224俵	目標：8,600俵 (実績：)	目標：9,000俵 (実績：)	目標：10,100俵 (実績：)	

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程(実施具体策・到達目標)			
		平成27年度(基準年)	平成28年度(1年目)	平成29年度(2年目)	平成30年度(3年目)
食農教育を核とした地域の活性化	健康への関心が高いことから好評のウォーキングをJAの取り組みとして拡充。	○指導課が女性部で開催	○女性部を中心とした、地域住民の参加促進	○継続	○参加者の女性部会員加入による拡充と、JA管内の地域の活性化
	評価指標：上記活動参加者数	各支部女性部で開催	目標：300名 (実績：)	目標：400名 (実績：)	目標：500名 (実績：)
	小学5年生の米づくり体験の支援を充実させる。	○田植え、稲刈り体験のみ	○学校・JA青年部との調整	○生き物調査の追加	○継続
	地場産品を使った料理講習・食農研修の実施等、食農教育を通じた地域住民の健康増進と絆を深める取り組み。	○野菜ソムリエと食育ソムリエの能力を活かしていない状態	○ソムリエによる地場産品を使った料理講習や食農教育の実施 ○パン作りそば打ち等体験工房の実施	○継続	○愛菜館イベントでソムリエによる料理講習、研修の実施 ○パン作りそば打ち等、体験工房の本格実施
評価指標：上記活動取り組み回数	年3回程度	目標：四半期に1回 (実績：)	目標：四半期に2回 (実績：)	目標：月1回 (実績：)	